

# 2013 年度夏季実態調査（ベトナム）報告

佐藤康一郎

嶋根 克己

## I. 記念シンポジウムの開催に向けて

2011年に嶋根克己所員が中期研究員としてベトナムを訪問した際に、ベトナム社会科学院東北アジア研究所との伝手ができた。そして、専修大学社会科学研究所とベトナム社会科学院東北アジア研究所との間で国際交流組織間協定を締結してはどうか、という提案が2011年10月になされ、社会科学研究所事務局会議で審議された。

提案は満場一致で可決され、当時の町田俊彦所長より専修大学国際交流センター長に対し、ベトナム社会科学院東北アジア研究所を国際交流組織間協定候補校として推薦した。

その後、国際交流センター委員会、学部長会、常勤役員会の審議を経て、2012年2月にベトナム社会主義共和国ハノイ市にあるベトナム社会科学院において、ベトナム社会科学院東北アジア研究所との国際交流組織間協定を締結した。

協定締結のための訪問団は、町田俊彦前所長、宮寄晃臣前事務局長、嶋根克己所員、村上俊介所長、大矢根淳現事務局長、小池隆生所員（研究会担当）、そして佐藤の7名であった。

専修大学社会科学研究所では概ね2年に一度、海外での実態調査を実施しているが、2012年度はすでに予定が決まっていたため、2013年にベトナム社会科学院を訪問することとした。

帰国後、協定締結のための訪問団のメンバーで打ち合わせをし、2012年4月より村上所員、嶋根所員、宮寄所員、大矢根所員、佐藤の5名でグループ研究を開始することとした。2013年4月からは嶺井正也所員も加わって活動している。

ベトナム社会科学院東北アジア研究所との交流は、2012年11月21日にゴ・フォン・ラン氏とファム・ティ・スアン・マイ氏を招いて開催された社会科学研究所定例研究会（共催：特別研究助成「ベトナム社会主義共和国の経済及び産業、社会、文化の変容と諸課題」）から本格的に始まった。

このころから嶋根所員、ゴ・フォン・ラン氏、佐藤を中心に2013年度の研究交流を検討し始め、2013年9月にシンポジウムをベトナム社会科学院で開催することとした。

2013年4月より村上俊介所長・大矢根淳事務局長の新執行部体制となり、本格的な準備に入った。メールでの連絡では細部の交渉は難しく、と同時に取り急ぎ方針を定めねばならない案件が出てきたため、大矢根事務局長、嶋根所員、佐藤の3人でゴールデンウィーク中にベトナム

社会科学院を訪問した。

その結果、2013年は日本とベトナムとの間で1973年9月21日に外交関係を樹立してから40周年にあたる記念すべき年であり、日本ベトナム友好年となっているため、当初予定していた専修大学社会科学研究所とベトナム社会科学院東北アジア研究所との合同シンポジウムではなく、専修大学社会科学研究所とベトナム社会科学院との国際シンポジウムに格上げすることになった。

また、検討テーマも「第1セッション 日本およびベトナムにおける経済問題」、「第2セッション 政治・安全保障分野における日・越協力関係」、「第3セッション 日本およびベトナムにおける社会問題」となり、当初の予定から一部変更された。

同じタイミングで佐藤は、専修大学社会科学研究所とベトナム社会科学院との国際シンポジウムを日本ベトナム友好年記念行事として開催するため、日本ベトナム友好年実行委員会に対し書類を整え認定申請し、本シンポジウムは日本ベトナム友好年記念事業の認定を得ることができた。

その後の2度の事務局会議と6月8日に開催された所員総会を経て、上記の内容で開催が正式に決定した。

参加者は、村上俊介所長および大矢根淳事務局長をはじめ、50音順に飯沼健子所員、稲田十一所員、梶原勝美所員、金井雅之所員、佐藤、嶋根克己所員、馬場純子所員、原田博夫所員、樋口博美所員、福島義和所員、溝田誠吾所員、嶺井正也所員、飯田謙一研究参与、熊野剛雄研究参与、柴田弘捷研究参与、法人より松木健一常務理事、の18名であった。

9月2日に日本を出発し、当日参加者で結団式を開催した。そして3日と4日の2日間にわたり国際シンポジウムを開催した。プログラムは、以下のとおりである。

**専修大学社会科学研究所・ベトナム社会科学院共同開催**  
**日越外交関係樹立 40 周年（1973 - 2013）記念シンポジウム**  
**『日越関係：40 年の回顧と将来の方向性』**  
**“Quan hệ Việt Nam – Nhật Bản: 40 năm nhìn lại và định hướng tương lai”**  
**(Japan- Vietnam Relation: 40 Years Back Looking and Future Orientation)**

9 月 3 日

08:30	受付開始
09:00-09:30	オープニングセレモニー ベトナム社会科学院院長 グエン・スアン・タン教授挨拶 ベトナム社会主義共和国駐箚特命全権大使 谷崎泰明閣下挨拶 学校法人専修大学 松木健一常務理事挨拶
	coffee break
10:00	オープニングセッション 共同座長：ベトナム社会科学院院長 グエン・スアン・タン教授 共同座長：原田博夫所員
10:00-10:20	「越日関係 40 年の道のり：成果と展望」 ベトナム社会科学院東北アジア研究所所長 チャン・クアン・ミン博士
10:20-10:40	「東アジアにおける政治・安全保障の新たなコンテキストと国防・安全保障分野における日越協力関係の可能性」 早稲田大学政治経済学術院 坪井善明教授
10:40-11:00	「今日のベトナムにおける社会保障分野における問題および越日協力の可能性」 ベトナム社会科学院東北アジア研究所政治安全保障研究室室長 チャン・ティエー・ニュン博士
11:00-11:20	「ベトナムと日本における社会関係資本と市民社会」 村上俊介所長
	short break
11:50-12:20	討論
12:20-13:20	昼食：専修大学主催 Buffet Lunch
13:30-14:00	専修大学社会科学研究所・ベトナム社会科学院参加者紹介
14:00	第 1 セッション 日本およびベトナムにおける経済問題 共同座長：ベトナム社会科学院東北アジア研究所所長 チャン・クアン・ミン博士 共同座長：原田博夫所員
14:00-14:30	「ベトナムの経済発展ニーズと経済分野における越日協力の展望」 早稲田大学社会科学部 チャン・ヴァン・トー教授
14:30-15:00	「日本の人口動態変化と産業・市場 四国地方を例にして」 佐藤康一郎所員
	coffee break
15:20-15:50	「ドイモイ政策実施後 27 年のベトナム経済」 ベトナム社会科学院東北アジア研究所副所長 ダン・スアン・タイン博士
15:50-16:30	討論
16:30-16:40	第 1 日目閉会のあいさつ
18:00-20:00	ベトナム社会科学院院長主催夕食会

9月4日

09:00	第2セッション 政治・安全保障分野における日・越協力関係 共同座長：ベトナム社会科学院東北アジア研究所副所長 ダン・スアン・タイン博士 共同座長：柴田弘捷研究参与
09:00-09:30	「新興ドナーとしての中国の台頭と東南アジアへの影響」 稲田十一所員
09:30-10:00	「ベトナムにおける日本のODAとFDI：政治・安全保障の協力観点から」 外国投資局・計画投資省 ダン・スアン・クアン博士
10:00-10:30	討論 coffee break
11:00-11:30	「東アジア地域の新たな背景および安全保障分野における協力の機構について」 東北アジア研究所機関誌「東北アジア研究」副編集長 ファム・クイ・ロン博士
11:30-12:00	「東南アジアにおける地域統合 ―新たな枠組みとなり得るか―」 飯沼健子所員
12:00-12:30	討論
12:40-13:30	昼食：ベトナム社会科学院主催 Buffet Lunch
13:40	第3セッション 日本およびベトナムにおける社会問題 共同座長：ベトナム社会科学院東北アジア研究所機関誌 「東北アジア研究」編集長 ファム・ホン・タイ教授 共同座長：嶋根克己所員
13:40-14:10	「ベトナムにおける都市化の問題および解決法」 ベトナム社会科学院社会学研究所副所長 ブー・マイン・ロイ教授
14:10-14:40	「斜面都市長崎市の居住問題―日本の2030年―」 福島義和所員
14:40-15:10	討論 coffee break
15:40-16:10	「ベトナムにおける高齢者および高齢者保護の問題」 ベトナム社会科学院社会学研究所所長 ダン・グエン・アイン教授
16:10-16:40	「日本の高齢化と高齢者の暮らし」 馬場純子所員
16:40-17:10	討論
17:10-17:30	閉会式 村上俊介所長挨拶 ベトナム社会科学院副院長 グエン・クアン・トゥアン教授挨拶
18:30-20:30	専修大学社会科学研究所主催夕食会

両日の参加者はマスコミなど取材陣を含めて150人を超え、立見が出るほどの盛況であった。

5日は国民経済大学経営学部、ハノイモールド株式会社などを訪問し、6日と7日は1994年にユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録されたハロン湾と陶磁器の生産地として著名なバッチャン村を訪問した。また、8日に現地で解団式を開催し、翌9日に帰国した。

(佐藤康一郎)

## II. ベトナム社会科学院、東北アジア研究所

前節の「日越外交関係樹立 40 周年記念シンポジウム」にいたるまでの経緯に加えて、このシンポジウムを共同主催するにいたったベトナム社会科学院 (Viện Hàn lâm Khoa học Xã hội Việt Nam. Vietnam Academy of Social Sciences. 以下 “VASS”) と本学社会科学研究所と国際交流協定を締結している東北アジア研究所 (Viện Nghiên cứu Đông Bắc Á. Institute of Northeast Asian Studies.) について簡単に紹介しておきたい。

VASS は、政府直轄の巨大なシンクタンクとして 28 の付属研究所、2 つの科学事業機関、3 つの主席裁量機関、5 つの補助機関が設置されており、国内外の社会科学、人文科学、地域研究、国際関係領域を研究することで、ベトナム政府に政策提言を行っている。また社会科学分野において大学院レベルの教育活動もおこなっている。前身となる「歴史・地理・文学研究班」の設立は 1953 年に遡るので、2013 年は創立 60 周年目ということになる。数多くの研究機関のすべてを列挙することはできないが、いくつかを紹介しておこう。個別科学分野としては民族学院、ベトナム経済研究院、宗教研究院、史学院、哲学院、社会学院 (研究所) などがある。また地域研究においては、ヨーロッパ、アフリカ・中東、アメリカ、東北アジア、東南アジア、中国などの地域を対象とする研究所がある。2011 年よりグエン・スアン・タン (Nguyễn Xuân Thắng) 博士が主席を務めている。

東北アジア研究所 (以下 “INAS”) は、VASS 傘下にあるいくつかの地域研究所のひとつであり、その目的は日本、韓国、モンゴルなどの東北アジアの国々や地域を研究の対象とする。その前身は 1993 年に設立された日本研究センターであり、INAS では 2013 年 9 月に創立 20 周年の記念式典が実施された。INAS の主要な任務は東北アジア地域の国々の経済、政治、社会、歴史、文化などに関する研究を行うこと。当該地域の構造や発展についての理論的・実践的な問題について研究を行い、ベトナム政府の政策決定に科学的な根拠を与えること。などとされ、日本研究センターのほかに韓国研究センターを擁している。現在はチャン・クアン・ミン (Trần Quang Minh) 博士が研究所長を務めている。

(嶋根克己)